

私たちの活動や意見を仲間
で共有します。
会費は県と日本平和委員会
の活動も支えます。

土浦平和の会ニュース

2018年9月15日 第319号

発行：土浦平和の会

事務局：土浦市烏山2-530-296

HP：//heiwatutiura.web.fc2.com/

県原水禁学校開く

ふたたび被爆者をつくらないために



9月2日、原水爆禁止茨城協議会主催、土浦平和行進実行委員会など共催で茨城県原水禁学校が県南生涯学習センターで開かれ、日本被団協事務局長の木戸季市氏が「被爆者の願い・核兵器も戦争もない世界を」と題した講演、そして「原水爆禁止2018世界大会」参加者からの報告がありました。

木戸氏は、高齢化で被爆体験者は年々少なくなっている。被爆の記憶がある最後の世代の一人として被爆の実相を語り継ぐ必要があるとして、5歳のとき長崎で爆心地から2kmの路上で被爆した自らの生々しい体験や自身の被爆者運動への係わり、日本被団協62年のたたかいなどについて語りました。1956年に結成された日本被団協は、証言活動、原爆展などを通じ広く国内外に被爆の実相を伝えるとともに、徹底した調査と研究、被爆者に国の償いや核兵器廃絶の要求を掲げ運動してきた。昨年国連での核兵器禁止条約の採択やICANのノーベル賞は運動の大きな成果である。ノーベル平和賞については被団協は毎年受賞の候補に挙げられていた。残念ながら今回は受賞出来なかったがICANの受賞に

は被団協も大きく貢献したと思うと述べ、現在進められている被ばく者国際署名は被団協結成60年目の2016年4月に開始、被爆者の最初で最後の核廃絶署名となるであろう。現在873万筆で、10月8日から始まる国連総会までに1000万筆、2020年までに国民過半数、世界で数億をめざす。ふたたび被爆者をつくらせない、核兵器から人類を守る唯一の道は核兵器をなくすこと、戦争させない仕組みをつくることだと強調。



原水禁世界大会報告では大会参加者6人が報告。そのうち茨厚労（農協関係病院）安本真理子さんから、13名の女性組合員が世界大会に参加した。安倍内閣の下で医療現場の労働条件も悪化している。自分たちの労働条件だけに留まっていたは足元がすくわれる。労働条件や地域医療を守ることも憲法・平和を守ることも基本は同じ「いのちを守る」ことである。平和の問題も組合活動のなかに位置付け、平和大行進など平和運動に取り組んできたことを世界大会総会で発言したと報告。



沖縄から平和の波を

沖縄知事選勝利めざすつどい

9月9日、CO-OP土浦にて沖縄県民とかがたく連帯し激戦の知事選勝利をめざす学習と連帯の集いが開催されました。主催は土浦憲法共同センター。参加者36名がDVD「速報辺野古」を視聴、さらに県平和委員会事務局長木村泉さんを講師に「日米地位協定」を学習しました。参加者10名からの質問・意見など活発で有意義な集いとなりました。知事選へのカンパも14,800円寄せられ、現地沖縄へ応援に向かう福田さんに託されました。



秋の一斉平和宣伝行動

10月15日

早朝県内駅頭でチラシ配布・宣伝!

9月8日、県平和委員会は、今年秋の一斉平和宣伝行動は「東海第二原発20年延長反対」、「憲法9条改悪反対・沖縄辺野古新基地建設反対」を柱に、常磐線など県内主要駅頭で実施するのを決めました。

土浦平和の会はかすみがうら平和の会、阿見平和の会と共同で神立、土浦、荒川沖駅で10月15日(月)早朝(6:30~7:30)、宣伝やチラシ配布を行います。多数の参加をお願いします。

平和の旅へのお誘い 秋の甲州路(山梨県)を満喫しませんか

主催: 土浦平和の会
憲法9条土浦の会



今年の「平和の旅」は“秋の甲州路”（山梨県）と決まりました。昨年の“信州路”（長野県）に続き、自然の恵み豊かな絶景の旅となります。八ヶ岳、南アルプス、富士山の絶景はもちろん、平和の旅らしく貴重な歴史・資料館なども巡る旅です。

是非一緒に旅を楽しみませんか？

遠くてあまり知られていない山梨の魅力を実感しましょう！

実施要領

日程 11月13日(火)・14日(水)

行程

◎第1日目 土浦＝中央道＝山梨平和ミュージアム＝昼食＝山梨県立美術館＝高速＝長坂IC＝浅川伯教・巧兄弟資料館＝宿泊ホテル（ロイヤルホテル八ヶ岳）

◎第2日目 ホテル＝まきば公園＝高速＝旧高野家住宅（甘草屋敷）＝ぶどうの丘＝恵林寺＝中央道＝土浦

費用 2万円（交通費、ホテル代、入館料等）

募集人数 30名

申込先 近藤輝男 080-1987-4050

森泉弘子 080-1084-7428

福田勝夫 090-3537-2632

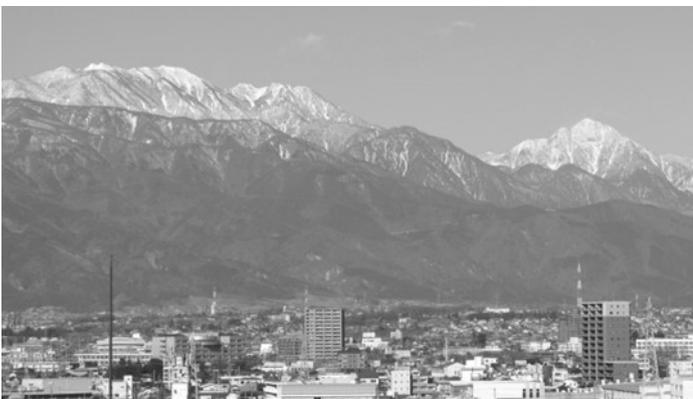
古澤 明 090-6509-1223

福田洋子 090-8314-3934

○集合時間；13日 午前7時

○集合場所；あけぼの交通駐車場（つくば市古来）

○解散時間；14日 19時（予定）



原発は稼働してもしなくても割に合わない（げんぱつ茨城207号より）

福島第1原発の放射能汚染水が113万トンたまって、まだ毎日百数十トン増え続けているという。処理施設で処理できない高濃度の汚染物質トリチウム汚染水が現在85万トンたまっているだけでなく、泥状廃棄物スラリートや吸着剤、ろ過材等も700立方メートル溜まって処理できないでいるといいます。

原発が稼働していない7社が「原子力発電費」として維持・管理に5年間で5

兆円支出しているといいます。保守管理費、警備など人件費や委託費、核燃料の再処理費、福島事故賠償の負担金などである。「100万キロワットの原発1基の再稼働で年間1千億円程度収益改善になる」という計算だが、新規基準に沿って多くの安全対策が必要に

なっている。

原発は安いという神話はもう通用しない。その費用を自然エネルギー開発に使うべきです。

原発は割に合わない

井上仁志(土浦平和の会理事)

【平和の会へのおさそいを。「平和新聞」購読も広げましょう】

- 幅広い年代からの加入を勧めましょう。ご家族・ご近所・友人・知人などにお声かけを
- 「平和新聞」（毎月5、15、25日発行）月額400円

